

迷信を信じる？ 情報の正否の見極めを！



節分に、豆まきをした方はいらっしゃるでしょうか。最近では豆より恵方巻を食べるほうが多いのかもしれませんが。

私の子どもの頃は恵方巻を食べる習慣はなかった気がしますが、今では広く定着しています。このように、一部の風習がいつの間にか多くの人に広まり、ならわしになっていることがあります。

悪いことが続くと不安を取り除こうと厄よけや願かけなど、さまざまな行動に出ることがあります。「知らなければ何ともないが、知ってしまうと何か落ち着かない」という経験はありませんか。

一例として、丙午（ひのえうま）迷信もその一つです。

江戸時代初期、江戸は火事が多く「丙午の年には火災が多い」という迷信がありました。決定的になったのは「八百屋お七」からといわれています。お七とは、江戸時代に放火事件を起こして処刑された八百屋お七のことです。お七は「丙午」の年の生まれだった、という話です。そんなうわさが江戸中でささやかれ、広まり、丙午の出生を避けるようになったとも言われています。

近年の丙午は明治期と昭和期にあり、どちらの年も前年よりも出生数が減少しています。しかし、この2つの丙午生まれの出生数を比較してみると、昭和の方が減少率が大きかったです。

その原因の一つに、明治にはなかった週刊誌の普及が挙げられています。多くの人が、週刊誌から得た丙午の知識にとらわれた結果、出生数に影響を与えたのです。

現在、インターネットの普及にとともに、情報量も以前とは比較にならないほど増えています。情報社会の中で、私たちは流れてくる情報をうのみにして信じ込んでしまうと大きな落とし穴に落ちる可能性もあります。曖昧なものに振り回されず、情報の正否を見極め、自分の意見をしっかり持つことが大切ではないでしょうか。

